

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムシガレイ

学名 *Eopsetta grigorjewi*

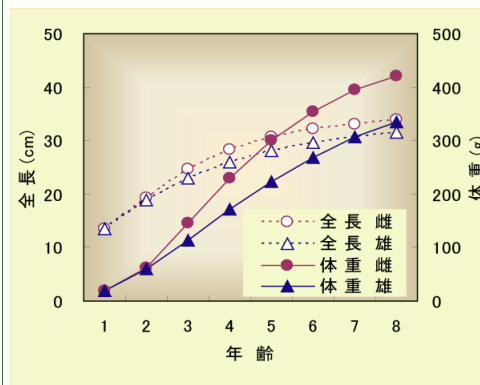
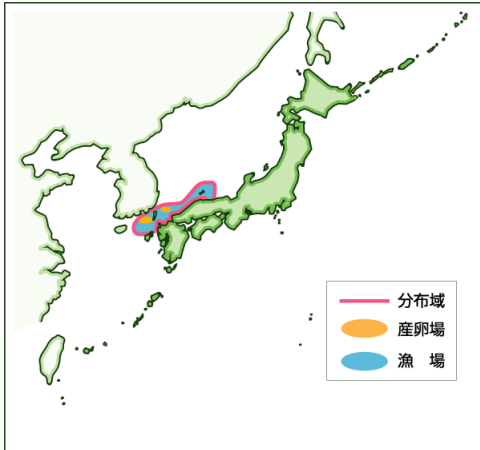
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳
成熟開始年齢: 3歳(一部)、4歳(100%)
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: 全長約12cmまでは小型甲殻類、12cm以上ではエビ・カニ類やイカ類、全長約18cmから魚類
捕食者: 不明

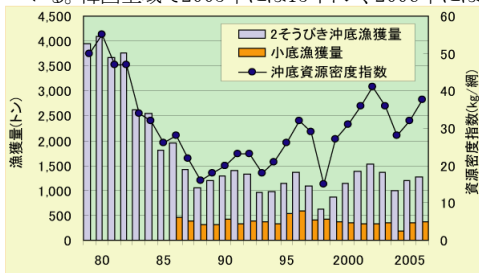


漁業の特徴

日本海西区におけるムシガレイは、底びき網、刺し網、延縄等で漁獲される。漁獲量の大半は2そうびき沖合底びき網(以下沖底)と小型底びき網(以下小底)によるものである。我が国の2そうびき沖底のムシガレイ漁場は、対馬南西域から隠岐周辺に及ぶ。

漁獲の動向

漁獲量は1980年代前半に減少した後、数年に亘る増減傾向を持って推移している。2004年には12百トン、2006年には17百トンの漁獲があった。近年の2そうびき沖底の漁獲量は1千トン前後、小底の漁獲量は3百トン前後で推移している。韓国全域で2005年には15千トン、2006年には20千トンのカレイ類が漁獲されている。



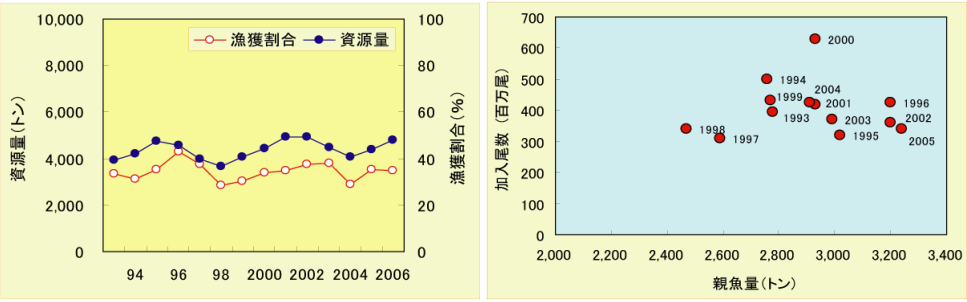
資源評価法

漁獲量、漁獲努力量等の情報を収集し、漁獲物の生物測定結果とあわせて年齢別の漁獲尾数による資源解析を行った。

資源状態

資源量は増減を繰り返しながら、1993～2006年に4千トン程度で同水準を保っている。加入量(資源計算の1歳魚資源尾数)は、1995年、2001年にやや高い値を示しつつ、1993～2006年に一定の水準で推移している。親魚量も安定している。



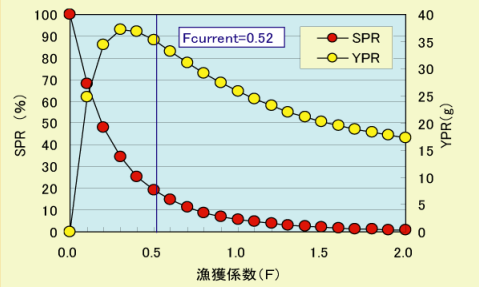


管理方策

現状の漁獲圧のもとで、資源は現状を維持することが期待される。しかし、資源は低位水準にあると判断されるので、漁獲圧を下げるのが望ましい。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,400トン	$0.9F_{current}$	0.46	32%
ABCTarget	1,200トン	$0.8 \cdot 0.9F_{current}$	0.37	27%

- 漁獲割合はABC／資源量
- $F_{current}$ は2006年のF
- F値は各年齢の単純平均



資源評価のまとめ

- 資源は低位水準ながら比較的安定している
- 安定した加入量のもとで、漁獲圧と加入量の均衡がとれている

管理方策のまとめ

- 資源は低位水準にあるので、漁獲圧を下げるのが望ましい

資源評価は毎年更新されます。